

ジェネリック医薬品ってどんな薬？

「そうは言っても、剤形、味や香り、添加剤の違いが気になる…」というあなたへ

今日からわたしもジェネリック編 ①

「価格の安さ以外にジェネリックの良いところはあるの？」というあなたへ

色や形、味や香りなどが異なる場合がありますが、効き目に差はありません。

ジェネリック医薬品は新薬と異なる添加剤を使用する場合がありますが、医薬品に使用する添加剤は、それ自身が体に作用したり有効成分の治療を妨げたりするものは使用していません。**使用前例があり、安全性が確認されている添加剤**が使用されています。**添加剤が異なっても、効き目や安全性に影響はありません。**

ただし、アレルギーがある方は、新薬、ジェネリック医薬品を問わず、添加剤の中でアレルギーを起こすものがあるかもしれませんので、医師や薬剤師にご相談下さい。

患者さんにやさしい製剤工夫がされている薬もあります。また、種類も豊富で、さまざまな病気に対応しています。



(出典) ジェネリック医薬品ガイドブック「知っ得！ジェネリック」 日本ジェネリック製薬協会 P.6

添加剤の使用目的

- 有用性を高める
- 製剤化を容易にする
- 品質の安定化を図る

添加剤の使用条件

- 投与量で**薬効を示さない**
- 投与量で**無害である**
- 有効成分の**治療効果を妨げない**

(出典) ジェネリック医薬品ガイドブック「知っ得！ジェネリック」 日本ジェネリック製薬協会 P.5

● たくさんの病気に対応した、ジェネリック医薬品が発売されています。

ジェネリック医薬品は、高血圧をはじめとする生活習慣病のお薬のほか、花粉症などのアレルギー疾患、感染症の治療など幅広く使われる抗生物質、さらには抗がん剤まで、さまざまな種類が発売されています。あなたのお薬も、ジェネリック医薬品にできる可能性は十分あります。

さらに

錠剤・散剤・カプセル剤・点眼剤・貼付剤・注射剤など、いろいろな形状の薬がつくられています。

～たとえばこんな病気にも～



(出典) 「なぜ？なに？ジェネリック医薬品」ガイドブック 東和薬品 P.11～P.12

ジェネリック医薬品ってどんな薬？

「ジェネリック医薬品を処方してもらうにはどうすればいいの？」というあなたへ

病院では

診察のとき、お医者さんに相談してください。

まずはお医者さんに、ご自分の薬をジェネリック医薬品にできるかどうか、気軽に聞いてみましょう。



薬局では

処方せんを渡すとき、薬剤師さんに相談してください。

薬局で薬剤師さんに処方せんを渡す際に、「ジェネリック希望」とお伝えください。



処方せんの「変更不可」欄に「✓」または「×」の記入がなく、かつ、保険医署名欄に署名等がない場合、ジェネリック医薬品に変更できます。

変更不可	変更可能
○錠 20mg	△△錠 100mg

変更できません

ご家族にもジェネリック医薬品のこと、教えてあげてください。

より多くの方にジェネリック医薬品をお使いいただけるよう、あなたが知った知識をご家族やご友人など、身近な方に教えてあげてください。「みんなで使う」ことが医療費の節約につながります。



『ジェネリック希望&相談シール』でもっと気軽に相談を。

保険証やお薬手帳の余白部分に貼り付けることで、ジェネリック医薬品を希望している目印になります。